

令和4年9月22日

半田市長 久世孝宏 様

幸せになるための教育を実現する会議  
委員長 鈴木雅貴

## 幸せになるための教育の実現について（提言）

「人づくり」にとって、教育は最も重要な要素です。

今日、私たちを取り巻く社会環境は日々変化しています。世界規模でいえば、未だ先行きが見えない新型コロナウイルス感染症、地球温暖化などの気候変動、ロシアによるウクライナ侵攻などは、我が国にも大きな影響を及ぼしています。また、国内に目を向ければ、人口減少とともに超高齢社会を迎え、今までの経験に基づいた対処では社会が機能しなくなると危惧されます。そして、今後も、さまざま起きてくることが予想されます。これからの時代を担っていく子どもたちには、この激動する社会を強く生き抜く力が不可欠です。

そのためには自分自身の判断基準で物事を見極め、納得した答えを導き出し、行動していく能力が必要です。さらに、安易に他人との比較だけで価値観や優劣を決めるのではなく、多様性を尊重し、個人個人が互いに納得できる答えを導き出す能力も必要です。その判断基準となるものが「幸せ」であると、私たちは考えました。

人生で最も大切なことは、一人ひとりが「幸せ」であることです。

人づくりで最も重要な要素である教育においても、「幸せ」になることを最終目的に掲げて取り組むことで、大きな効果を生み出すことが期待できます。そして、多様化の時代である今、「幸せ」は、個人それぞれで異なり、十人十色で、他人から押し付けられるものではなく、定義されるものでもありません。だからこそ、子どもたち一人ひとりの考えを引き出し、深め、対話していくことが重要であり、半田市という地方自治体レベルから取り組むものです。

幸せになるための教育では、一人ひとりが考えた末の答えはどれもが正解であり、その成果は10年、20年、30年後の社会や個人の姿に帰着するものと考えます。この半田市

が行う子どもたちの未来へ向けた取り組みは、個人の幸せから地域の幸せ、ひいては国の幸せにも寄与するもので、これからの地域と日本を創りあげる礎となります。

そこで、幸せになるための教育を実現する会議として、幸せになるための教育の導入について、下記のとおり提言させていただき、教育現場で取り組むことを願います。

## 記

1. 半田市において「幸せになるための教育」を考えて実現していくこと
2. 「幸せになるための教育」を実現していくやり方は、教育委員会がその方向性を整え、その取り組みは各学校、各教員が主体的に自由に考え、進めていくこと
3. 教育現場で「幸せになるための教育」を実施しやすい環境整備に努めること